

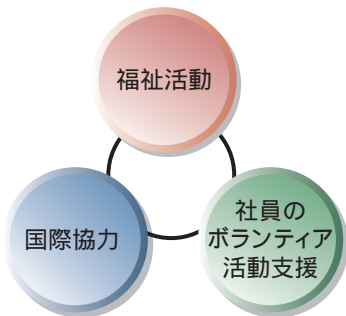
社会貢献活動

社会貢献の3つの柱

当社およびグループ各社は、社会の健全な発展に貢献する企業集団を目指し、「良き企業市民」として社会貢献に努めています。

特に「福祉活動」「国際協力」に重点を置き、これらの分野で専門的な活動を行っている民間非営利組織(NPO)との連携を図りながら、広く内外社会の発展に貢献する活動に取り組んでいます。また、社員一人ひとりが社会に関心を持ち、自らの見識を深めながら、積極的に課題解決に取り組んでいくことが大切であるとの考えから、「社員のボランティア活動」を積極的に支援しています。

これからも、当社およびグループ各社では、すべての社員とともに豊かな社会の実現を目指して社会貢献活動に取り組んでいきます。



福祉活動

豊かな社会の実現に貢献するための福祉活動を行います。

書き損じはがきの寄贈

当社では、グループ各社の社員から「書き損じはがき」を募集し、未使用切手に交換のうえ、ボランティア団体に寄贈しています。

三井住友銀行ボランティア基金

有志社員の給与から毎月一律100円を天引きして、災害や経済的困難等にかかわる援助を行うボランティア団体等への寄付を行っており、約1万人が加入しています(平成16年3月現在)。平成15年度の取り組みは以下のとおりです。



* マラリアや結核などの感染症が蔓延するハイチ共和国のスラム地域の保健センターに、1年間の運営費を寄付しました。



* アフガニスタン北部で紛争や地雷により被害を受け障害を負った人々への治療費用を寄付しました。



* カンボジアで、エイズにかかった孤児たちが暮らす施設に医療スタッフの費用を寄付しました。



* 子供向けの本が非常に不足しているカンボジアで、現地の民話絵本「2匹のかわうそ」の出版と先生の読み聞かせ研修会にかかる費用を寄付しました。



* 子供向けの本が非常に不足しているラオスで、学校図書室の開設と子供の情操教育を行う子供文化センターの運営費用を寄付しました。



* 経済的な理由などで就学できないラオスの小学生に奨学金を寄付しました。



* 経済的な理由などで就学できない中国農村部の児童に奨学金を寄付しました。



* ケニアの難民キャンプで、民族紛争や災害により破壊された簡易住居の修復費用を寄付しました。



*アフリカのマリ共和国の砂漠で、稲作のためにクリーク（水路）を建設する費用を寄付しました。



*バングラデシュの農村を、識字教育や衛生改善、収入向上活動等により支援するプロジェクトに寄付しました。



*インドネシアで、小学校のトイレや水飲み場の設置や、机・椅子の寄贈、保護者への農業指導にかかる費用を寄付しました。



*三宅島噴火被災者が集まる島民集会にて、高齢や障害のために参加が難しい方々の移動費用を寄付しました。

未使用テレホンカードの寄贈

三井住友銀行では、毎年、社内で「未使用テレホンカード」を募集し、ボランティア団体に寄贈しています。

使用済み切手、使用済みプリペイドカードの寄贈

三井住友カードでは、毎年、社員から「使用済み切手」「使用済みプリペイドカード」を募集し、ボランティア団体に寄贈しています。

地域での公開講座開催



日本総研では、本社所在地の千代田区にて、参加無料の「日本総研アクティブシニアアカデミー公開講座」を開催しています。本講座では、シニア世代に地域社会の課題解決に積極的に参加いただくための情報を提供しています。

第1回は平成16年4月に「日本経済の行方」のテーマで行いました。以降平成17年3月まで、毎月1回開催の予定です。

国際協力

国際社会の発展に貢献する活動を行っています。

ユニセフ（国際連合児童基金）への支援

*三井住友銀行は、ユニセフ外国コイン募金実行委員会のメンバー企業として、同募金活動の運営に協力しています。当行の国内本支店・出張所の店頭にて「外国コイン募金箱」を設置して協力を呼びかけ、集まった募金はグループ会社「SMBCグリーンサービス」の協力を得て各国通貨別に仕分けし、ユニセフに送っています。活動を開始した平成4年からの募金総額は4億1,900万円にものぼっています（下図ご参照）。

また、普通預金の税引後利息をユニセフに寄付していただく「ユニセフ愛の口座」を取り扱い、三井住友銀行でもお客さまと同額の寄付をしています。

*三井住友カードでは、VISA ジャパン協会の会員向けポイントサービス「ワールドプレゼント」を通じて、カード会員の方からの寄付金を毎年日本ユニセフ協会へ寄付しており、同制度を開始した平成4年からの募金総額は1億5,700万円にものぼっています。また、「ユニセフVISAカード」や「赤い羽根VISAカード」など社会貢献型カードを発行し、各団体の活動資金として、カード利用額の一部を寄付・還元することで、よりよい社会づくりに貢献しています。

～外国コイン募金活動への取り組み～



外国通貨による募金を三井住友銀行の店頭募金箱で受け付けます。



全国の空港などから集められた外国通貨とともに、三井住友銀行グループ会社「SMBCグリーンサービス」に送られ、各国通貨別に仕分けます。



©UNICEF

「ユニセフ外国コイン募金実行委員会」各社の協力により、外貨を各国の銀行に輸送し、米ドルに換金した後、ユニセフを通じて世界の子供のために使われます。

SMBC GLOBAL FOUNDATION

アジアの大学生への奨学金の支給などを目的に設立された同財団は、タイ、中国、インドネシア、シンガポール等で助成活動を行っています。現在は教育関係支援に加え、米国地域貢献などに活動を広げています。

三井住友銀行国際協力財団

開発途上地域の経済発展に資する人材の育成および国際交流を目的とし、アジアの留学生への奨学金支給や発展途上国に関する研究機関・研究者への助成を行っています。

社員のボランティア活動支援

社員自らが行うボランティア活動を支援しています。ボランティア活動によって社会に対する見識がより深まると考えています。

ボランティアスタッフ YUI (ゆい) の活動

三井住友銀行では、社員自らが企画立案を行う社内ボランティア組織「YUI」の支援を行っています。名称は江戸時代に共同で農作業を行う「結」に由来し、さまざまな人との「つながり」を大切にしたいという気持ちが込められています。平成 15 年度は以下のような活動を行いました。



* 耳の不自由な子供たちが通う小学校で、平成 14 年度より年 2 回パソコン教室を開催し、筆談や手話で説明しながら、子供たちにパソコンの操作方法を教えています。

* 社員から集めた物品をバザー会場で販売し、売上金をボランティア団体に寄付する活動を平成 13 年度より毎年行っています。

* 在宅サービスセンターに通う高齢者の方に歌を披露していただく晴れの舞台を演出するイベントを、平成 14 年度より年 1 回開催しています。

手話講習会の開催



三井住友銀行では、耳の不自由な方への理解を深めることや業務を通じた社会貢献として店頭でのお客さまサービスの向上を目的とし、平成 9 年度より毎年、手話講習会を開催しています。

参加人数は年々増加しており、平成 15 年度は 189 人の有志社員が受講しました。受講後は、店頭でのお客さまとの会話をはじめ、手話を使ったボランティア活動への参加や、受講した社員が講師となって初心者の社員を対象とした手話講習会を開催するなど、各自の受講成果をさまざまに活かしています。

ボランティア体験講座の開催

三井住友銀行では、社員が業務後や休日を利用して気軽にボランティアを体験できるイベントを開催しています。また、ボランティア活動に関する各種情報を社員に案内し、積極的な参加を呼びかけています。平成 15 年度の取り組みは、次のとおりです。



* 盲導犬のデモンストレーションやアイマスクをしての歩行・飲食体験を通して、目の不自由な方へのサポートの仕方を学ぶ親子参加のイベントを開催しました。



* 耳の不自由な方をサポートする聴導犬とのふれあいや初歩的な手話の習得を通じて、耳の不自由な方への理解を深めるイベントを他社との共同で開催しました。



* 目の不自由な方々と、野鳥のさえずりや樹木・草花の感触・香りなどの自然観察を楽しむイベントを他社との共同で開催しました。



* アイマスクをした状態でお札を数えたり、名刺に点字を打つことなどを体験するイベントを、他社との共同で開催しました。

地域クリーンアップへの参加



* 平成 16 年 4 月、三井住友銀行の有志社員約 200 名が、東京都の荒川河川敷において、清掃活動と河川の水質調査を実施しました。



* 三井住友銀行リースでは、大阪本社の社員が自主的かつ継続的に御堂筋の早朝清掃を行うなど、地域の美化に貢献しています。